

秋の夜長は…

ミステリー

秋になりました。永福YAスタッフから
「読書の秋」としておすすめのミステリーを紹介します。

♠ 『百万の手』

畠中恵/著 東京創元社
請求記号:BGハ

「しゃばけ」シリーズの著者が描く現代ミステリー。主人公・夏貴はある日親友の正哉を目の前で亡くしてしまう。正哉の死の原因はなんだったのか。夏貴は真相を調べ始めるが…。事件を追ううちにあきらかになる主人公自身の秘密に注目！

♣ 『我らが隣人の犯罪』

宮部みゆき/著 文芸春秋
請求記号:BGミ

人気作家宮部みゆきの短編集。その中から「サボテンの花」をおすすめ。卒業式間近の六年一組が一丸となって始めた意外な卒業研究。それは大人をも欺く巧妙なトリックであった…。

♥ 『解錠師』

スティーヴ・ハミルトン/著 越前敏弥/訳
早川書房
請求記号:BRハ

主人公は、どんな鍵でも開けることができる。その才能は「解錠師」として犯罪に利用されている。鍵を開けるシーンの描写が精巧で、緊張感が伝わってくる。スリルとサスペンスが味わえる作品。主人公の恋の行方も気になるところ。

◆ 『幻想探偵社』

堀川アサコ/著 講談社
請求記号:BGホ

野球部の海彦は、拾った楠本ユカリの生徒手帳を渡すため、彼女の跡を追ってとある探偵社を訪れます。そこで海彦は、ユカリとともに、大島と名乗る幽霊の体探しを手伝う羽目に…。幽霊も大活躍する、コミカルミステリーです。



中学生・高校生の

永福図書館職場体験記



今年度、4～8月に永福図書館で職場体験してくれた中高生の皆さんに、
感想を直撃インタビュー！



高校生

この図書館で働いて、とてもいい経験になったと思う。書架整理や返却処理などの仕事がたくさんあって大変だったが、スタッフのみなさんの支えもあって、きちんと仕事をする事ができた。とても楽しかったです！

体験してみて利用者が使いやすいように書架整理など細かい配慮がされていることが分かりました。図書館で体験したことによって、これからは利用者の視点だけではなく司書の視点としても図書館を利用したいと思います。



高校生



中学生

想像しているより、はるかに大変だった。ただ、カウンターで本の貸出と、返却をしていけばいいものだと思っていた。でも、やってみたらとてもおもしろかったし、やりがいもあった。

私は職場体験でこの図書館に来ました。とても大変でしたが学ぶ事は多く楽しかったです。私はたった3日間ほんの一部の仕事をするだけだけど、それを毎日やっている図書館の方々はずごとと思いました。



中学生



高校生

数年前にもこちらで奉仕活動をさせていただいたのですが、その時と違い、今回は職員の方も着用していらっしゃるエプロンをつけての活動ということで、終始身の引きしまる思いでした。持ちあげる・屈む動作の多い書架整理は想像以上にきつく、いつもの快適な図書館は職員の皆様方の細やかな配慮によって成り立っているのだと改めて実感しました。また、久しぶりに読み聞かせに参加させていただいたのですが、小さな子どもたちが楽しそうに絵本を見つめている姿はとてもかわいらしく、たくさん本を読んでほしいなと思いました。私自身も、これからも感謝を忘れず、丁寧に図書館を利用していきたいです。今回は奉仕活動員として受け入れて下さり有り難うございました。

皆さん、お疲れ様でした！

興味のある方は、学校の職場体験や奉仕活動の際にぜひ図書館へ来て下さいね。

永福YA通信 2015年 秋号 (Vol.5)

編集・発行：杉並区立永福図書館
〒168-0064 東京都杉並区永福4-25-7
☎ 03-3322-7141

<杉並区立図書館ホームページ>

<https://www.library.city.suginami.tokyo.jp/>

<モバイル専用>

杉並区立図書館
ホームページ QRコード

こちらからアクセスできます

